

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成19年9月発行 NO: 8号

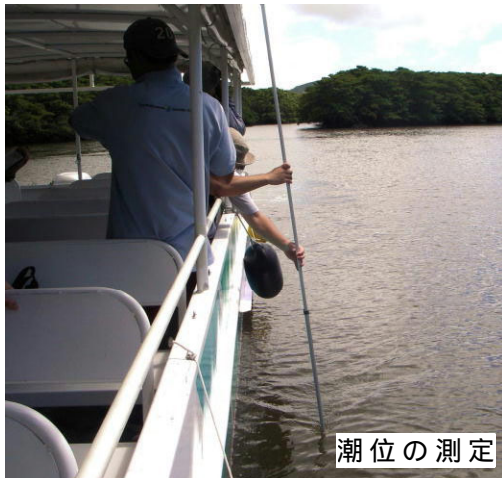


環境保全型観光促進事業を推進する

「仲間川利用限界算出・モニタリング検討のための調査及び意見交換会」 に出席

8月29日、西表島仲間川における標記の調査及び交換会に出席しました。この調査は、仲間川の環境保全型観光促進を図る沖縄県が、関係行政機関、NPO、観光船を運航する業者等で組織する検討委員会などのデータ収集として事前調査を実施したものです。

当日は、観光船の限界運航潮位基準作成につながる仲間川の水位を潮位表と連動させるための潮位測定、環境指標である動植物等のモニタリング項目及び調査方法等について現地調査を実施すると共に、その結果を基に意見交換会が実施されました。



静岡大学の学生33名が来訪

8月29日、静岡大学小嶋教授が引率した学生33名が「社会生態環境調査演習」の一環として当センターを来訪しました。

当センターでは、西表島の概要、森林生態系保護地域、森林環境教育やモニタリング等の取組状況について説明しました。

一行は、29日から9月4日まで、西表島内において各研究機関等による講義、及びマングローブ林等の現地を視察するなど、亜熱帯の森林・林業、自然と人との共生関係等について学習調査を行いました。



「亜熱帯森林・林業研究会」において移入種対策について発表

9月7日那覇市において「亜熱帯森林・林業研究会」が開催され、当センターから瀬高自然再生指導官が「海岸林におけるギンネム（移入種）の駆除抑制について」の題で、ギンネムの侵入状況と駆除対策効果及び今後の課題について報告しました。

「亜熱帯森林・林業研究会」は、沖縄を中心とする亜熱帯地域の森林・林業に関する技術研究及び行政で実施する施策等について情報の交換及び発信を行うことを目的として、沖縄県及び鹿児島県内の亜熱帯地方の森林・林業に関係する大学、行政、研究機関、民間団体等に携わる人々が年に1回、那覇市に集い発表を行っているものです。

今回は、奄美大島から西表島における亜熱帯の森林・林業について、11課題の研究結果等が発表されました。



「亜熱帯森林・林業研究会」那覇市

ウブンドルのヤエヤマヤシ群落の植生調査を実施

9月6日、先の7月30日調査に基づきウブンドルのヤエヤマヤシ群落の詳細な調査を実施しました。

調査方法は、標準地調査と写真観測を行いました。次回にまとめを報告する予定です。



標準地調査

船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリングを実施

9月11日、9月期モニタリング調査を実施しました。

調査項目は、ニッパヤシの樹勢の状況把握、葉数、葉高、開空度の調査です。

調査結果としては、調査データからの数値として統計的な明確なものではありませんが、視観的に葉色が良く、葉高もますますの成長を示し、樹勢は順調に回復しているものと思われます。

また、新たな花穂が確認されました。



ニッパヤシの葉高調査

平成19年度ヒナイ川・西田川の利用状況調査（8月分）報告

8月期の利用状況調査を、15日（水）に西田川、22日（水）にヒナイ川と、それぞれ実施しました。観光シーズンとあってか、両箇所とも今年度最高の利用者数を記録しました。

西田川は、ガイドツアー4組（37名（ガイド含む））、レンタルカヌー1組（1名）の計5組（38名）となりました。またヒナイ川では、ガイドツアー22組（146名（ガイド含む））、レンタルカヌー3組（7名）の計25組（153名）となりました。

なお、岐阜県多治見市や埼玉県熊谷市では40.9度の日本最高気温を記録した今期の夏も未だ35度以上の猛暑日が続いているようですが、関東、関西方面（中には北海道）などから西表島を訪れたツアー客から口々に「西表島は意外と涼しいですね。避暑に来たみたいだ」との声が聞かれました。南国の西表島の涼しさに複雑な気持ちになっておられたようです。

ちょっぴりの涼しさと南国の素晴らしい大自然を満喫した気持ちで残暑を乗り切ってもらいたいものです。

残暑はまだ続きます。熱中症にはくれぐれもご注意ください。



カヌーでいっぱいのヒナイ川

マングローブの水準測量を実施



仲間川流域に広がるマングローブ域の水位の状況を把握するための水準測量を、西表亜熱帯樹木展示林から仲間川支流の北舟付川にかけて実施しました。海水面の変動が木道等ほどの程度の影響を及ぼすかを探る手がかりとするものです。

オヒルギの膝根（満潮には水の底となる）

日本大学の学生4名が当センターを学習訪問

8月1日、日本大学の学生4名が当センターを学習のため訪問しました。学生は、独立行政法人森林総合研究所林木育種センター西表熱帯林育種技術園に研修のため訪れたもので、併せて当センターで西表島に係る自然環境などについて事前学習をしたものです。

当センターでは、業務概要及び自然環境などについて説明しました。中でも説明に用いたオヒルギの木炭については、大変興味を示されるなど、西表島の森林・林業について大いに質問・意見を受けました。

8月2日から西表島に入り本格的な研修を受講するとのことで、最後に島における基本的な生活についてアドバイスを行いました。



センター内での学習

西表島の樹木

今回は、汽水域の植物を掲載します。

サキシマスオウノキ (先島蘇芳木) *Heritiera littoralis*

科：アオギリ科 *Sterculiaceae* 属：サキシマスオウノキ属 *Heritiera*

種：サキシマスオウノキ *H. littoralis*

分布は、熱帯アジア、台湾、ポリネシア、熱帯アフリカに分布し、マングローブ林のある湿地の内陸側に多く生育する。日本では奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島から知られている。この種の特徴は、大きな板根で、沖縄ではかつてこの板根を切り出してそのまま船（サバニ）の舵として使用した。なお、板根を持つ樹木は熱帯域に多い。種子は、ウルトラマンの顔にそっくりな形をしている。樹皮は、染料、薬用として利用される。和名のサキシマスオウノキ（先島蘇芳木）は、染料として利用されるスオウ（蘇芳木、マメ科の落葉小高木）に由来する。



見学者



森の巨人たち百選の「サキシマスオウノキ」



種子(ウルトラマンの顔形)

【雑記】

西表島の新名所「やまねこ岩」？を紹介

西表島の仲間川河口に架かる仲間川橋から約1 km上流の右岸にヤマネコそっくりの岩があるのを発見しました。地元で遊覧船のガイドをされている方も気にされていなかったようで、当センター職員が何気なく写真を撮っているとき気づきました。そこで、この岩に名称と由緒を考えてみました。

当センターで勝手に名称（命名者：山下）と由緒（筆者：遠山）を付けましたので御笑読下さい。

なお、本当の名称、由緒など現存しましたら当センターへ教えて頂ければ幸いです。

命名：やまねこ岩

由緒：昔々のこと、西表島の東部に流れている仲間川周辺に親子のイリオモテヤマネコが棲んでいました。仲間川は大原地区と大富地区を分ける西表島東部で最も大きな川で、橋もなく船にも乗れないヤマネコは、干潮の時だけ歩か、「ネコかき」で行き来していました。

ある日のこと、子ネコは大きな台風が西表島に向かって来ているとも知らず、大富地区に遊びに出かけました。そこへ大きな台風が襲来し仲間川は大洪水となりました。そのような洪水の仲間川を子ネコは帰る途中流されて可哀想に死んでしまいました。そうとも知らず何時帰るとも知れない子ネコをいつまでもいつまでも待ち続けたヤマネコの親は、川岸で待つ姿で岩になっていまでも待ち続けているそうです。



仲間川の「やまねこ岩」

やまねこ岩へのアクセス

西表島の仲間川遊覧船に乗船。仲間川橋を過ぎてから約1 kmの右岸（上流に向かって左側）。なお、下流側から見るのがポイント。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>